

令和5年度 地域公共交通に関する自己評価概要（全体）

江南市地域公共交通会議

平成19年 6月27日設置

平成30年 3月 「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」策定

■ 地域の特性と背景

- ・市内東部から南部にかけて名鉄犬山線が走り、江南駅、布袋駅が存在。
- ・名鉄バスが10路線、大口町コミュニティバスが3路線※1運行。
- ・市内全域で、いこまいC A R※2を運行。計画的な昼間のお出かけに対し、路線バスを補完するものとして市民の足を担う。

- ・第6次総合計画では、以下のとおり拠点を位置付け、中心拠点－地域拠点間や、中心拠点同士を交通ネットワークで結び、住みやすく利便性の高いコンパクトなまちづくりをめざす。

『中心拠点』…江南駅・布袋駅を中心とする区域

『地域拠点』…江南厚生病院～KTXアリーナ周辺

(江南市スポーツセンター)

曼陀羅寺公園～江南団地周辺

■ 公共交通の基本的な方針

- ・コンパクトエリアについては、鉄道や路線バスを中心に市民の足を確保。
- ・コンパクトエリア外については、既存の公共交通をできる限り維持。
- ・市内全域で、路線バス等でカバーできないエリアはいこまいC A Rを運行。
- ・路線バス・いこまいC A Rで対応できない場合は、福祉タクシー（福祉施策）や通常のタクシーで市民の移動を担う。
- ・地域主体の新しい公共交通サービスの導入についてルールを定め、支援を行う。

※1 令和2年4月から運行路線増設（2路線→3路線）

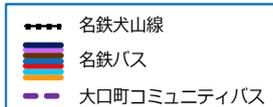
※2 市民の市内の移動手段として、市が運行するタクシーを利用した交通サービス

地域が主体となって、新しい公共交通サービスを導入する場合は、ルールを定め、必要な支援を行う。

コンパクトエリアは、鉄道・路線バスを中心に市民の足を確保。

コンパクトエリア外については、既存の公共交通をできる限り維持する。
市内全域で、路線バス等でカバーできないエリアはいこまいC A Rを運行する。
福祉タクシーや通常のタクシーも足を担う。

令和5年時点の市内公共交通（鉄道・路線バス）



■ 取組期間(総合計画と連動)

平成30年度～令和9年度（平成39年度）

政策評価

指標	設定理由と対策	算出方法
市民一人当たりの公共交通利用回数	利用回数の推移について、変動理由を考察。公共交通政策の方向性の確認を行い、事業に反映。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの利用者数（名鉄バスより提供） ・いこまいC A Rの利用者数（江南市が集計） ・大口町コミュニティバスの江南市内の停留所の利用者数（大口町より提供） R5.4月からR6.3月の上記人数を合計して年間の利用回数を算出し、年度末時点の人口で割って算出。 名鉄バスの利用人数は、古知野線（2路線）、江南・病院線、江南団地線（4路線）、木曽川線、一宮・宮田線（2路線）の路線別利用者数の合計とする。 補助路線以外の利用人数は、路線ごとに年間の利用人数をOD調査（起終点調査）2日分の市内停留所の利用者数で按分したものを年間利用者数の推計値として利用。

事業評価

評価対象	指標	設定理由と対策	算出方法
路線バスの維持確保(補助路線)	利用者一人当たりの市負担額の推移(路線別評価)	路線別の推移について、変動理由を考察。事業評価で報告し、事業の維持・改善に反映。	下記の補助路線における、当該年度の補助金を、補助金算定期間であるR4.10月～R5.9月の利用者数で割って算出。 <ul style="list-style-type: none"> ・江南・病院線 ・江南団地A線(古知野高校経由) ・江南団地D線(ヴィアモール経由) ・江南団地E線(団地経由江南厚生病院行)
いこまいC A Rの維持確保	市負担額の推移	事業費の変動内容から、変動理由を考察。事業評価で報告し、事業の継続または見直し内容に反映。	該当年度の決算額を利用。

令和5年度に掲げた対応方針

令和5年度の具体的取組み事項

公共交通政策

- 公共交通事業者と密に連携し、利用者の動向を把握するとともに、今後の運転士が置かれる状況を考慮して、新たな公共交通について先進自治体の情報収集や交通事業者との協議により調査・研究していく。
- 超高齢社会への対応について、実態調査の結果を参考に高齢者・福祉担当部局と連携し、公共交通政策と福祉政策を総合的に検討する。



- A I オンデマンド交通を導入している県内自治体を訪問し、情報収集を行い、調査結果と調査により見えてきた課題をまとめ、本市に適する新しい公共交通導入の検討材料とした。
- 高齢者・福祉担当部局と打合せをした結果、福祉タクシーチケットといこまいC A Rの選択制について改善が必要であることを確認した。

名鉄バス

- 路線バスの利用が安定的に継続されるよう、利用実態を適切に把握し、必要に応じてダイヤ改正により運行便数の適正化を図る等利便性の維持につながる対応策を検討する。
- 新たな公共交通の導入による路線バスへの影響が最小限となるように運行エリア等を検討する
- 利用促進に関して名鉄バスと連携した取り組みを実施する。



- 江南団地E線の内、特に利用者が少ない江南団地と江南厚生病院間のバスに乗車し利用実態の把握を行った。
- 公共交通事業者と情報共有を行い、路線バスへの影響が少ない新しい公共交通の運行エリアについて検討を行った。まずは市北部地域を検討する方針とした。
- 名鉄バスと連携し、11月8日に開催された高齢者教室にてバスの乗り方教室で利用促進を行った。

いこまいC A R

- 利用者の利便性の向上につながる制度の見直しや労働時間等の基準の改正に伴う影響について、タクシー事業者と協議し、今後のいこまいC A R制度の在り方について検討する。
- いこまいC A Rの運行のひっ迫を軽減するため、新たな公共交通としてA I オンデマンド交通について検討する。



- 迎車回送料金（200円）を利用者負担から市負担とする検討を行い、令和6年4月より市負担へ運用を変更した。
- A I オンデマンド交通を導入している県内自治体へ調査を行い、調査した結果および調査により見えてきた課題をまとめた。※1
- 防災安全課及び警察署では免許返納者を対象に、保健センターでは子育て世帯を対象にチラシを配付(継続)した。

※1 検討結果については参考資料4「AIオンデマンド交通の調査結果について」を参照

■ 政策評価

指標	H28(基準年)	R4(前年)
市民一人当たりの公共交通利用回数	11	9

(単位:回/人) ※小数点以下四捨五入

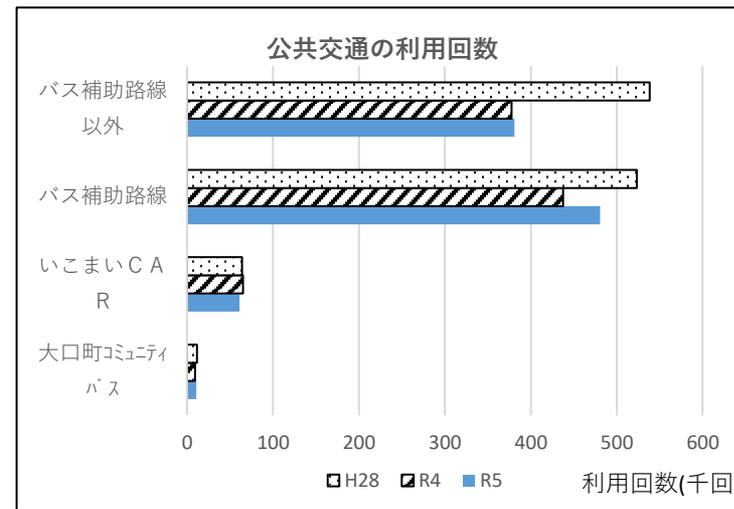
R5(評価年)	評価
9	△

【参考】利用回数内訳

内訳	H28(基準年) (H28.4~H29.3)	R4(前年) (R4.4~R5.3)
名鉄バス補助路線以外(推計)	538,525	377,729
名鉄バス補助路線	523,513	437,446
いこまいC A R	63,900	65,134
大口町コミュニティバス	11,518	9,298
合計	1,137,456	889,607
年度末時点人口(単位:人)	100,915	98,785

(単位:回)

R5(評価年) (R5.4~R6.3)
380,846
480,693
60,791
10,658
932,988
98,389



評価に関する考察

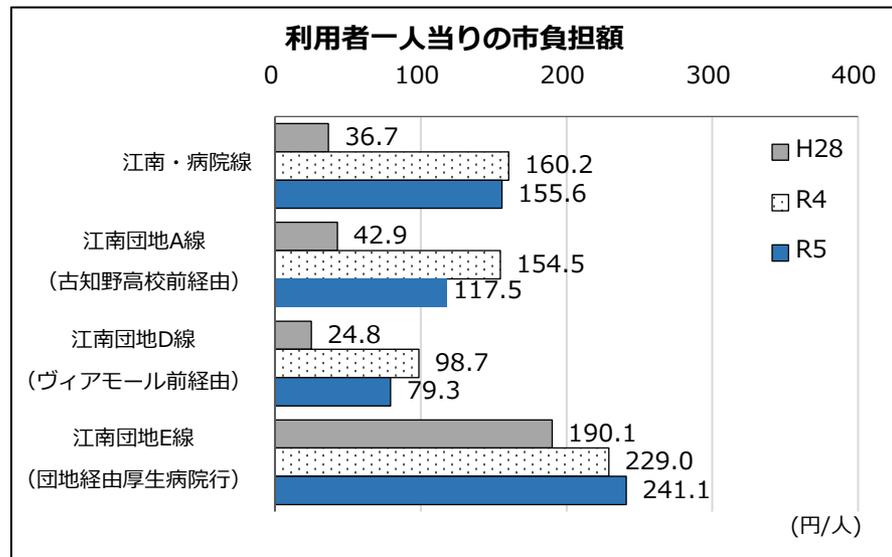
- 令和5年度の公共交通利用回数は、コロナ禍前の状況まで回復していない状況だが、概ね回復しつつある状況と考える。
- 名鉄バス補助路線以外(推計)の利用回数は、基準年である平成28年度と比較し、大幅に減少しているのは、令和3年10月から一宮駅を発着する私立中学・高等学校の通学バスの運行が開始されたことが影響しているものと推測する。令和4年度と比較すると微増しており、コロナ禍の影響が緩和され、利用客が戻りつつあるためと推測する。
- 名鉄バス補助路線は令和4年度と比較すると利用回数が大幅に増加している。これは一部の路線のみが突出して増加しているわけではなく、江南病院線・江南団地A線・江南団地D線・江南団地E線の各路線で同程度増加している。
- 時間帯別利用状況では平日朝10時台が最も利用人数が多く、一般タクシーの需要時間帯は平日朝8~9時であるとタクシー事業者から報告を受けているが、令和4年度と比較すると利用回数は減少していることから、利用者のニーズが変化している、もしくは需要を取り込めていない可能性がある。

■ 事業評価 (路線バス) ※補助路線

利用者一人当たりの市負担額 (年間補助額) の推移 (補助対象期間)

(単位:円/人)

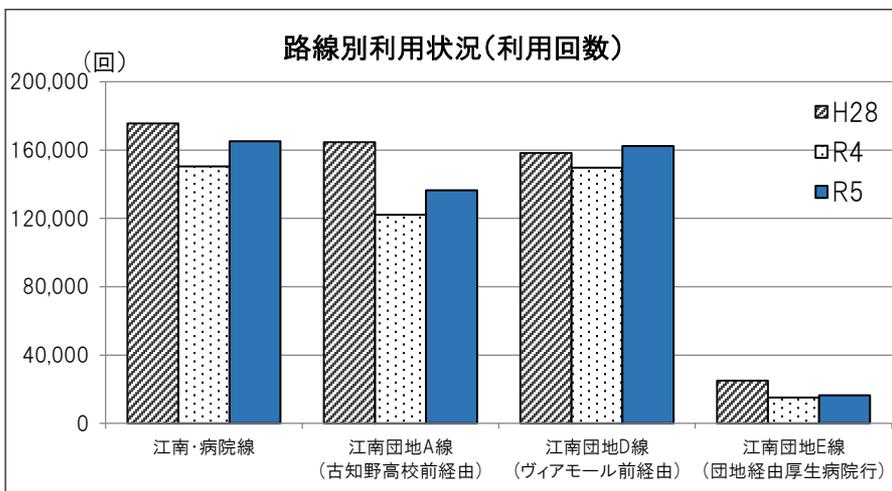
区分	H28(基準年) (H27.10~H28.9)	R4(前年) (R3.10~R4.9)	R5(評価年) (R4.10~R5.9)
江南・病院線	36.7	160.2	155.6
江南団地A線 (古知野高校前経由)	42.9	154.5	117.5
江南団地D線 (ヴィアモール前経由)	24.8	98.7	79.3
江南団地E線 (団地経由厚生病院行)	190.1	229.0	241.1



年間利用回数 (補助対象期間)

(単位:回)

区分	H28(基準年) (H27.10~H28.9)	R4(前年) (R3.10~R4.9)	R5(評価年) (R4.10~R5.9)
江南・病院線	176,574	144,582	158,573
江南団地A線 (古知野高校前経由)	166,780	118,774	131,452
江南団地D線 (ヴィアモール前経由)	154,591	150,738	157,926
江南団地E線 (団地経由厚生病院行)	24,758	16,037	16,170



■ 事業評価（路線バス）※補助路線

評価に関する考察（補助対象期間における前年度比較）

【江南・病院線】

- ・ 1便当たりの利用者数は平成28年度は9.06人に対し、令和4年度は7.53人、令和5年度は8.27人となった。
- ・ 主な利用時間帯は平日朝7時台であり、10月・12月を除き、各月利用者数は増加している。
- ・ 布袋駅での乗降者数は増加しているのは、令和5年4月から布袋駅にtoko+toko=labo（複合公共施設）がオープンしたことが一因と推測される。

【江南団地A線】

- ・ 1便当たりの利用者数は平成28年度は7.05人に対し、令和4年度は5.58人、令和5年度は6.18人となった。
- ・ 平日朝の時間帯に便あたりの利用者が多いことから、コロナ禍による影響が緩和し、通勤、通学に利用する利用者が増加したと考えられる。
- ・ 年間のうち、特に4月の昼間の時間帯の乗降客数が増加しているのは、曼陀羅寺の藤まつりの再開が一因と推測される。

【江南団地D線・E線（共通）】

- ・ 1便当たりの利用者数について、江南団地D線は、平成28年度は9.26人、令和4年度は8.50人、令和5年度は8.91人となった。江南団地E線は、平成28年度は6.76人、令和4年度は8.23人、令和5年度は8.31人となった。
- ・ 令和3年4月よりE線を減便し、D線に振り替え、増便したことで、利用者が増加し、D線の1人あたりの補助額については減少した結果となった。 ※平日の便数を1日当たり1便増→江南団地E線からD線に振替

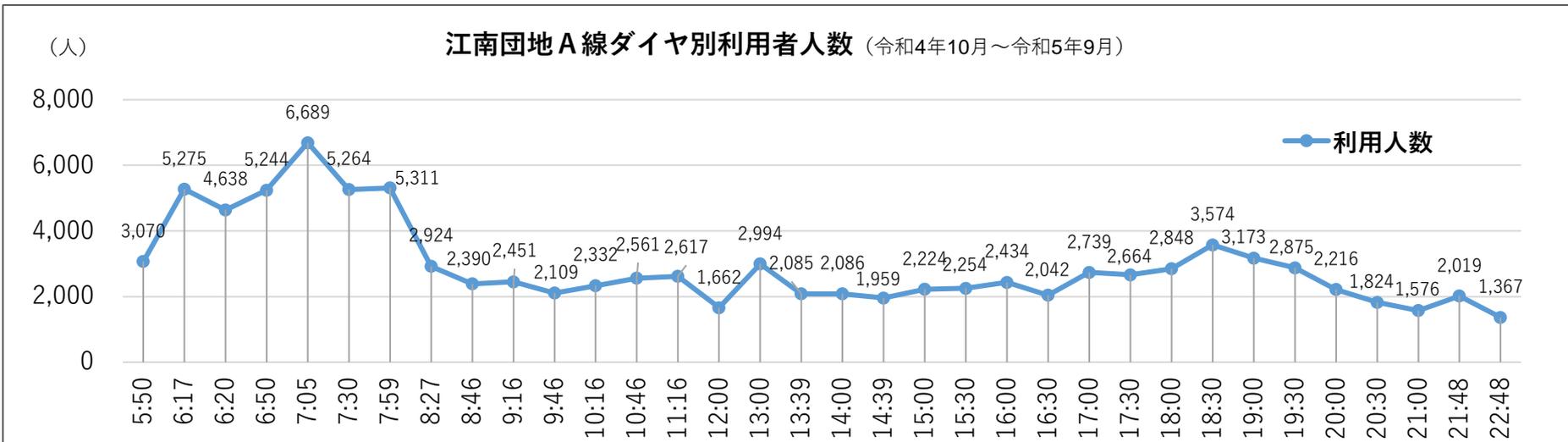
【江南団地E線：江南団地～江南厚生病院間】

- ・ 利用者（区間内のバス停留所乗降者数）が極めて少数となっている。利用実態調査の結果、高齢者の通院主な利用目的であり、ヴィアモール付近や江南団地に居住している方の利用がほとんどであった。

■ 事業評価 (路線バス) ※補助路線
 評価に関する考察 (参考数値)

江南・病院線	布袋駅利用者人数 (人)		
	下り (厚生病院行)	上り (布袋駅行)	計
令和4年4月～ 令和5年3月	75,752	74,748	150,500
令和5年4月～ 令和6年3月	82,106	83,090	165,196
前年度比	+ 6,354	+ 8,342	+ 14,696

	江南団地A線利用者人数 (人)		
	令和4年4月 ※藤まつり中止	令和5年4月 ※藤まつり再開	前年度比
10時台 (2便)	503	899	+396
11時台 (1便)	245	483	+238
12時台 (1便)	179	284	+105
13時台 (2便)	460	917	+457
14時台 (2便)	376	592	+216
15時台 (2便)	311	508	+197



■ 事業評価 (いこまいCAR)

市負担額の推移

	H28(基準年)	R4 (前年)
市負担額	32,002,680	32,366,510



(単位:円)

R5 (評価年)
34,670,810

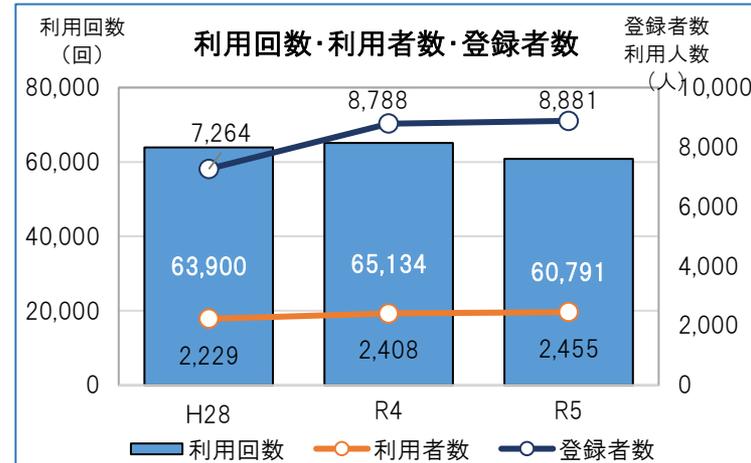
年間利用状況 (※令和元年10月1日から立寄りを開始)

区分	H28 (基準年)	R4 (前年)	R5 (評価年)
利用便数	54,536	54,086	52,105
利用回数 (=乗車人数)	63,900	65,134	60,791
登録者数	7,264	8,788	8,881
利用者数 (登録者数のうち実際に利用した人数)	2,229	2,408	2,455
立寄り件数	—	819	824



評価に関する考察

- ・ 利用便数は減少しているが、市負担額は7.1%増加した。令和5年3月から運賃が改定された (増収率11.91%) ことが一因と考えられる。
- ・ 利用者数は横ばいであるが、利用便数と利用回数は減少しており、需要を取り込めていない可能性がある。タクシー事業者の規模によっては運行できる車両が限られており、運行がひっ迫している時間帯がある。平日朝は通院のための利用が多く、予約が取りづらい状況となっていると推測される。



課題		対応方針（令和6年度取組み事項）
公共交通政策	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢社会、労働時間基準の改正等に伴い、安定した公共交通サービスを提供することができるか懸念される。 ・公共交通の需要回復が見込まれる中、一部いこまいC A Rの供給が追い付いていない時間帯がある。 ・福祉タクシーチケットといこまいC A Rの選択制について改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民のニーズ、及び既存公共交通の課題についての対応を反映させた政策となるよう、地域公共交通会議検討部会を立ち上げ、新たな公共交通について協議を進めていく。 ・いこまいC A Rと福祉タクシーチケットとの並行登録について、各担当部局と連携し、検討していく。
名鉄バス	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍後の利用状況は回復傾向だが、さらなる利用促進を図る取り組みが必要である。 ・平日朝の時間帯に便あたりの利用者が多く、一部の補助路線において、通勤・通学の時間帯の道路が渋滞しているため運行遅延が頻発しているとの報告を名鉄バスより受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主な利用者としては、高齢者だけではなく、次世代利用者である子どもも対象とし、路線バスを最大限利用してもらえるように利用促進を図る。 ・利用実態の把握に努め、必要に応じてダイヤの適正化を実施し、路線バスの維持に取り組む。
いこまいC A R	<ul style="list-style-type: none"> ・登録者や利用者は増加しているものの、利用便数と利用回数は減少しており、利用者のニーズが変化している可能性、又は需要を取り込めていない可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズの変化やいこまいC A Rの需要の増加に対応するため、利用時間の平準化等に向けて対策を検討していく。

令和5年度 地域公共交通に関する自己評価概要（経緯）

江南市地域公共交通会議

平成19年6月27日設置

平成30年3月 「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」策定

